

講 義 概 要
(シ ラ バ ス)

幼 児 教 育 学 科

【留意事項】

- 1、授業科目目下に記載のある（ ）書きの記号及び番号はナンバリングと呼ばれるもので、「授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組」となっています。
 幼児教育学科では48ページの「カリキュラムマップ」に記載がありますので確認してください。なお、記号の意味や番号等について概略を記載しておきます。

	100番台	200番台	300番台	400番台	記号の意味
幼児教育学科	基礎的な学び (社会人に必要なコミュニケーション能力の基礎を作る。各フィールドの基本的な学びに触れる。)	発展的な学び (修得した基礎力を発展させ、より一層のスキルアップを目指す。各フィールドに対する理解を深める)	専門的な学び (社会人に必要なコミュニケーション力を確立させる。各フィールドの専門性を深める)	応用的な学び (社会人に必要なコミュニケーション力を豊かなものにする。各フィールドの学びを完成させる)	保育の本質：E(Essence) 保育の対象への理解：U(Understanding) 保育の方法：M(Method) 論理的思考力：L(Logical thinking) 実践力と協働性：P(Practical skills)

- 2、本学における「実務家教員」には担当者名の後ろに（※）の印を付しています。
 実務家教員とは「企業や自治体などでの実務経験を持ち、教育研究の指導をする教員」「専攻分野における実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者」となっています。

【教養科目】

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
基礎ゼミ (L112)	1	必修	1年 前期	演習	佐藤 幸子(※)
【キーワード】 社会人基礎力、生き方、保育に必要なこと、協働性					
【授業内容・授業の目的】 幼児教育学科での学びについて学ぶこと、“生き方”と“保育”を結び付けて考えること、各授業内容の理解に必要な思考力と問題解決能力の基礎を習得することを目指す。キャリア教育の一環として、実習の事前学習を重ねながら自らの学習や生活、進路について理解を深めていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集しながら、周囲の人とコミュニケーションを取り自身の考えを発表したりすることができる。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的・主体的に考え活動できる。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	短大、幼児教育学科での学びについて	学生便覧を熟読し、学生生活の決まりを理解しておく（1時間）			
2週	図書館の活用と方法	配付資料に目を通しておく。（1時間）			
3週	自己を知る	「自己開発プログラム」用紙に記入する。（1時間）			
4週	“ものの見方”を考える（テキストから）	テキスト P53 まで読んでおく。（1時間）			
5週	“集団の中の個”を考える（テキストから）	テキスト主人公の名づけの意味を考える。（1時間）			
6週	“個”として、“集団”としての活動	遠足企画を考えておく。（1時間）			
7週	保育者の心構えを考える	子どもの思いを尊重するために考えることは何かまとめておく。（1時間）			
8週	遠足企画の内容を吟味する	遠足企画を充実させるため工夫する。（1時間）			
9週	遠足企画の実行と反省	企画どおりに遠足を実施した上で反省点を考える。（1時間）			
10週	遠足企画の報告と課題	遠足企画実施を通して保育の課題を考える。（1時間）			
11週	保育士としての学び（保育士を目指す意味）	保育の学びが保育士を目指す上でどう結び付くか検証する。（1時間）			
12週	定期試験についての学び	前期の学びを振り返り、自身の課題を考える。（1時間）			
13週	保育実習に向けた学びの発表（個別）	幼児向けの絵本を3冊選び、読み聞かせの練習をする。（1時間）			
14週	保育実習に向けた学びの企画発表（ゼミとして）	子ども向けステージの計画をする。（1時間）			
15週	前期のまとめ、後期への課題	学びと卒業後の展望から、後期の過ごし方の課題を考える。（1時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）40%、受講態度 40%、提出物 20% 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集しながら、周囲の人とコミュニケーションを取り自身の考えを発表したりすることができるかどうか、提出物及び受講態度によって評価する。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的・主体的に考え活動できるか、受講態度によって評価する。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができるか、提出物及び定期試験（レポート）によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 吉野源三郎原作、羽賀翔一漫画『君たちはどう生きるか』 マガジンハウス ISBN 978-4-837-2947-0 信州豊南短期大学キャリア支援室 『placement guide』（進路の手帳）					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 本授業を通して短大での学びの基礎について学びます。卒業までの2年間が充実したものとなるよう授業内での活動に積極的に取り組み、豊かな教養と専門の知識・技能を身につけた保育者・支援者を目指しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
基礎ゼミ (L112)	1	必修	1年 前期	演習	稲生 弘志
【キーワード】 社会人基礎力、生き方、保育に必要なこと、協働性					
【授業内容・授業の目的】 幼児教育学科での学びについて学ぶこと、“生き方”と“保育”を結び付けて考えること、各授業内容の理解に必要な思考力と問題解決能力の基礎を習得することを目指す。キャリア教育の一環として、実習の事前学習を重ねながら自らの学習や生活、進路について理解を深めていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集しながら、周囲の人とコミュニケーションを取り自身の考えを発表したりすることができる。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的・主体的に考え活動できる。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	短大、幼児教育学科での学びについて		学生便覧を熟読し、学生生活の決まりを理解しておく（1時間）		
2週	図書館の活用と方法		配付資料に目を通しておく。（1時間）		
3週	自己を知る		「自己開発プログラム」用紙に記入する。（1時間）		
4週	「大人になるということ」について考える（テキストから）		「勇ましき友」の場面の登場人物の心情を中心に、テキストを読んでおく。（1時間）		
5週	「人間の結びつき」について考える（テキストから）		テキストの「ニュートンの林檎と粉ミルク」を読み、不明な言葉等は調べておく。（1時間）		
6週	“個”として、“集団”としての活動		遠足企画を考えておく。（1時間）		
7週	保育者の心構えを考える		子どもの思いを尊重するために考えることは何かまとめておく。（1時間）		
8週	遠足企画の内容を吟味する		遠足企画を充実させるため工夫する。（1時間）		
9週	遠足企画の実行と反省		企画どおりに遠足を実施した上で反省点を考える。（1時間）		
10週	遠足企画の報告と課題		遠足企画実施を通して保育の課題を考える。（1時間）		
11週	保育士としての学び（保育士を目指す意味）		保育の学びが保育士を目指す上でどう結び付くか検証する。（1時間）		
12週	定期試験についての学び		前期の学びを振り返り、自身の課題を考える。（1時間）		
13週	保育実習に向けた学びの発表（個別）		幼児向けの絵本を3冊選び、読み聞かせの練習をする。（1時間）		
14週	保育実習に向けた学びの企画発表（ゼミとして）		子ども向けステージの計画をする。（1時間）		
15週	前期のまとめ、後期への課題		学びと卒業後の展望から、後期の過ごし方の課題を考える。（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）40%、受講態度40%、提出物20% 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集しながら、周囲の人とコミュニケーションを取り自身の考えを発表したりすることができるかどうか、提出物及び受講態度によって評価する。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的・主体的に考え活動できるか、受講態度によって評価する。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができるか、提出物及び定期試験（レポート）によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 吉野源三郎原作、羽賀翔一漫画『君たちはどう生きるか』 マガジンハウス ISBN 978-4-837-2947-0 信州豊南短期大学キャリア支援室『placement guide』（進路の手帳）					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 本授業を通して短大での学びの基礎について学びます。卒業までの2年間が充実したものとなるよう授業内での活動に積極的に取り組み、豊かな教養と専門の知識・技能を身につけた保育者・支援者を目指しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
基礎ゼミ (L112)	1	必修	1年 前期	演習	西川 晶子
【キーワード】 社会人基礎力 キャリア教育 観察記録 発表力 協働性					
【授業内容・授業の目的】 幼児教育学科での学習方法について学ぶことで、各授業内容の理解に必要な思考力と問題解決能力の基礎を習得する。キャリア教育の一環として、実習の事前学習を重ねながら、自らの学習や生活進路について理解を深めていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集し。周囲の人とのコミュニケーションを取りながらそれらを活用したり発表したりすることができる。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的主体的に活動できる。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	短大、幼児教育での学びについて		学生便覧を熟読し学生生活の決まりを理解しておく（1時間）		
2週	図書館の活用と方法		学生便覧の「図書館の利用について」を読んでおく。（1時間）		
3週	自己を知る		「自己を知る」についての配付資料を読んでおく（1時間）		
4週	自他を知る		「自他を知る」についての配付資料を読んでおく（1時間）		
5週	集団の中の個を考える		「集団の中の個を考える」についての配付資料を読んでおく（1時間）		
6週	保育者の心構えについて考える		「保育者の心構えについて考える」の配付資料を読んでおく（1時間）		
7週	遠足の情報収集 立案		当該地域について情報検索しておく（1時間）		
8週	遠足企画の内容を吟味する		企画案について、安全性や別案などを考える（1時間）		
9週	遠足企画の実行と反省		遠足企画の確認、準備等（1時間）		
10週	遠足企画の報告と課題		実施後の感想反省をまとめおく（1時間）		
11週	保育士の適性を考える		配布資料通読ワークシート記入（1時間）		
12週	定期試験についての学び 保育実習の準備		前期の学びを振り返り、自身の課題を考える（1時間）		
13週	保育実習に向けた学びの発表		保育実習に何がふさわしいか調べておく（1時間）		
14週	保育実習に向けたゼミ発表の立案		ゼミ発表の準備をしておく（1時間）		
15週	まとめと後期にむけて		前期をふりかえり整理する（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）40%、受講態度20%、提出物20%、論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集し。周囲の人とのコミュニケーションを取りながらそれらを活用したり発表したりすることができるかどうか、提出物、発表によって評価する。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的主体的に活動できるかどうか受講態度によって評価する。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができるかどうか提出物および定期試験によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 個別面談を行う。					
【テキスト】 信州豊南短期大学キャリア支援室『placement guide』（進路の手帳） 授業中に適宜資料を配付する。					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 本授業を通して短大での学びの基礎について学びます。卒業までの2年間が充実したものとなるよう授業内での活動に積極的に取り組み、豊かな教養と専門の知識、技能を身に着けた保育者・支援者を目指しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
基礎ゼミ (L112)	1	必修	1年 前期	演習	田中 育子(※)
【キーワード】 社会人基礎力、生き方、コミュニケーション力、保育に必要なこと、協働性					
【授業内容・授業の目的】 幼児教育学科での学びについて学ぶこと、“生き方”と“保育”を結び付けて考えること、授業内容の理解に必要な思考力と問題解決能力の基礎を習得することを目指す。キャリア教育の一環として、実習の事前学習を重ねながら自らの学習や生活、進路について理解を深めていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：成人として、保育・教育や進路に関する基礎的な情報を収集しながら、周囲の人とコミュニケーションを取り自分の考えを発表したりすることができる。実践力と協働性：担任や他の学生と信頼関係を築き、積極的・主体的に考え活動できる。保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	幼児教育学科での2年間の学びについて		学生便覧と placement guide を熟読し、学生生活の決まりを理解しておく。(1時間)		
2週	図書館の活用と方法 紙芝居に触れる		学生便覧の「図書館の利用について」に目を通しておく。(1時間)		
3週	自分の強みと弱みを知る		「自己開発プログラム」用紙に記入する。(1時間)		
4週	“ものの見方”を考える		テキストの『君たちはどう生きるか』を最後まで読んでおく。(1時間)		
5週	“集団の中の個”を考える(テキストから)		テキスト『君たちはどう生きるか』に登場する主人公の名前の意味を考える。(1時間)		
6週	“個”として、“集団”としての活動		遠足企画を考えておく。(1時間)		
7週	環境としての保育者を考える		子どもの思いを尊重し活動が充実するためにできることを考え、まとめる。(1時間)		
8週	遠足実施計画の内容を多面的に検討する		遠足実施計画を充実させるため工夫する。(1時間)		
9週	遠足実施計画の実施と反省		実施計画案に沿って遠足を実施し、反省点を考える。(1時間)		
10週	遠足実施計画の報告と課題		遠足実施から、保育の課題を考える。(1時間)		
11週	模擬体験から保育者としての学びを考える		経験からの学びが保育にどのように結び付いたかを検証する。(1時間)		
12週	定期試験についての学び		前期の学びを振り返り、自分の課題を考える。(1時間)		
13週	保育実習に向けた学びの発表(個別)		幼児向けの絵本・紙芝居を3冊選び、読み聞かせの練習をする。(1時間)		
14週	保育実習に向けた学びの企画発表(ゼミとして)		子ども向けステージの計画をする。(1時間)		
15週	前期のまとめ、後期への課題		学びと卒業後の展望から、後期の課題を考える。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(レポート)40%、受講態度40%、提出物20% 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集し、周囲の人とコミュニケーションを取って自分の考えを発表したりすることができるかを、提出物及び受講態度によって評価する。 実践力と協働性：担任や他の学生と信頼関係を築き、積極的・主体的に考え活動できるかを受講態度によって評価する。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができるかを提出物及び定期試験(レポート)によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 吉野源三郎原作、羽賀翔一漫画『君たちはどう生きるか』マガジンハウス ISBN 978-4-837-2947-0 信州豊南短期大学キャリア支援室 『placement guide』(進路の手帳)					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 本授業では、幼児教育学科で保育者としての基礎について学びます。チームとして2年間が充実したものとなるよう授業内での活動に積極的に取り組み、教養と専門の知識・技能を身につけた保育者・支援者を目指しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (L216)	1	必修	1年 後期	演習	佐藤 幸子(※)
【キーワード】自己分析、他者との関わり、キャリア教育、発表力、情報活用力					
【授業内容・授業の目的】前期で培った思考力と問題解決能力を用いて、子ども向けステージや制作、模擬保育といった保育現場に必要な活動を体験する。様々な経験をもとに、自分の性格や特性などの自己分析を深め、将来について計画的に学びを進める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：保育の技能や進路に関する情報を収集し、周囲の人と協力してそれらを活用したり発表したりすることができる。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生との信頼関係を基に、協調性・協働性を持って活動に参加できる。 保育の本質：保育者に求められる資質や倫理観を身に付け、子どもの発達段階に応じた保育を理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	夏休みの振り返りと後期の過ごし方について		夏休みを振りかえ、後期履修科目のシラバスを確認する。(1時間)		
2週	子ども向けステージの準備		子どもがより楽しめるように課題を考えておく。(1時間)		
3週	大学祭「子ども向けステージ」の課題を考える		子ども向けステージの課題から修正点を考えておく。(1時間)		
4週	大学祭「子ども向けステージ」の最終修正と準備		子ども向けステージに向けた最終確認をしておく。(1時間)		
5週	教育実習に向けて、技術をみがく		教育実習で行う自己紹介の準備をする。(1時間)		
6週	教育実習の心構え		教育実習では何を課題にしてどう学ぶかを考えておく。(1時間)		
7週	教育実習の反省と課題		教育実習の報告ができるようにまとめておく。(1時間)		
8週	”勇気と後悔”を考える(『君たちはどう生きるか』から)		勇気について考えておく。(1時間)		
9週	”仲間・友だち”を考える(『君たちはどう生きるか』から)		仲間・友人について考えておく。(1時間)		
10週	理想の保育士、理想の社会人を考える		どのような保育士になりたいか、考えをまとめておく。(1時間)		
11週	就職活動に向けての心構え		教育実習を振り返り、今後の自身の課題を考えておく。(1時間)		
12週	教育実習の反省と課題		他者から見た実習評価と、自己評価を比較する。(1時間)		
13週	1年の学びの自己評価		自己評価をした上で、卒業後の進路について考える。(1時間)		
14週	自己分析と将来について考える		1年を振り返り、できたこととできなかったことをまとめる。(1時間)		
15週	1年のまとめと来年度に向けて		自己理解を深め、将来に向けた目標設定をする。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験(レポート)40%、受講態度40%、提出物20% 論理的思考力：保育の技能や進路に関する情報を収集し、周囲の人と協力してそれらを活用したり発表したりすることができるかどうか、提出物及び受講態度によって評価する。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生との信頼関係を基に、協調性・協働性を持って活動に参加できるかどうか、受講態度によって評価する。 保育の本質：保育者に求められる資質や倫理観を身に付け、子どもの発達段階に応じた保育を理解しているかどうか、提出物及び定期試験(レポート)によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】信州豊南短期大学キャリア支援室『placement guide』(進路の手帳)					
【参考書等】内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】保育士という仕事は、生活や発達への支援を通して子どもたち等の「今」を支えるだけでなく、「未来」にも関わる仕事です。前向きな態度と真摯な姿勢で、自分自身の資質・能力を見極める努力を積みましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (L216)	1	必修	1年 後期	演習	稲生 弘志
【キーワード】自己分析、他者との関わり、キャリア教育、発表力、情報活用力					
【授業内容・授業の目的】前期で培った思考力と問題解決能力を用いて、子ども向けステージや制作、模擬保育といった保育現場に必要な活動を体験する。様々な経験をもとに、自分の性格や特性などの自己分析を深め、将来について計画的に学びを進める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：保育の技能や進路に関する情報を収集し、周囲の人と協力してそれらを活用したり発表したりすることができる。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生との信頼関係を基に、協調性・協働性を持って活動に参加できる。 保育の本質：保育者に求められる資質や倫理観を身に付け、子どもの発達段階に応じた保育を理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	夏休みの振り返りと後期の過ごし方について	夏休みを振りかえ、後期履修科目のシラバスを確認する。(1時間)			
2週	子ども向けステージの準備	子どもがより楽しめるように課題を考えておく。(1時間)			
3週	大学祭「子ども向けステージ」の課題を考える	子ども向けステージの課題から修正点を考えておく。(1時間)			
4週	大学祭「子ども向けステージ」の最終修正と準備	子ども向けステージに向けた最終確認をしておく。(1時間)			
5週	教育実習に向けて、技術を見がく	教育実習で行う自己紹介の準備をする。(1時間)			
6週	教育実習の心構え	教育実習では何を課題にしてどう学ぶかを考えておく。(1時間)			
7週	教育実習の反省と課題	教育実習の報告ができるようにまとめておく。(1時間)			
8週	「勇気と後悔」について考える(テキストから)	テキストの「ナポレオンと4人の少年」場面で不明な言葉等を調べておく。(1時間)			
9週	「人間の悩みや過ち」について考える(テキストから)	テキストの「雪の日の思い出」を読んでおく。(1時間)			
10週	理想の保育士、理想の社会人を考える	どのような保育士になりたいか、考えをまとめておく。(1時間)			
11週	就職活動に向けての心構え	教育実習を振り返り、今後の自身の課題を考えておく。(1時間)			
12週	教育実習の反省と課題	他者から見た実習評価と、自己評価を比較する。(1時間)			
13週	1年の学びの自己評価	自己評価をした上で、卒業後の進路について考える。(1時間)			
14週	自己分析と将来について考える	1年を振り返り、できたこととできなかったことをまとめる。(1時間)			
15週	1年のまとめと来年度に向けて	自己理解を深め、将来に向けた目標設定をする。(1時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(レポート)40%、受講態度40%、提出物20% 論理的思考力：保育の技能や進路に関する情報を収集し、周囲の人と協力してそれらを活用したり発表したりすることができるかどうか、提出物及び受講態度によって評価する。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生との信頼関係を基に、協調性・協働性を持って活動に参加できるかどうか、受講態度によって評価する。 保育の本質：保育者に求められる資質や倫理観を身に付け、子どもの発達段階に応じた保育を理解しているかどうか、提出物及び定期試験(レポート)によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】信州豊南短期大学キャリア支援室『placement guide』(進路の手帳)					
【参考書等】内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】保育士という仕事は、生活や発達への支援を通して子どもたち等の「今」を支えるだけでなく、「未来」にも関わる仕事です。前向きな態度と真摯な姿勢で、自身の資質・能力を見極める努力を積みましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (L216)	1	必修	1年 後期	演習	西川 晶子
【キーワード】 社会人基礎力 キャリア教育 模擬保育 発表力 情報活用力					
【授業内容・授業の目的】 前期に培った思考力と問題解決能力を用いて、子ども向けステージや制作、模擬保育といった保育現場に必要な活動を体験する。キャリア教育の一環として自分の性格や特性などの自己分析を深め、将来について計画的に学びを進める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集し。周囲の人とのコミュニケーションを取りながらそれらを活用したり発表したりすることができる。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的主体的に活動できる。 保育の本質：保育者に求められる資質や倫理観を身に着け、子どもの発達段階に応じた保育を理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	後期の過ごし方について		後期科目のシラバスを確認する。(1時間)		
2週	子ども向けステージの準備		子ども向けステージについて調べる (1時間)		
3週	子ども向けステージリハーサル		子ども向けステージの準備 (1時間)		
4週	子ども向けステージの修正を行う		子ども向けステージの最終確認 (1時間)		
5週	教育実習への準備 自己紹介		自己紹介の準備 (1時間)		
6週	教育実習の心構えと確認		教育実習の準備 (1時間)		
7週	教育実習を振り返る		教育実習についての考えをまとめる (1時間)		
8週	季節の行事を調べる		クリスマスの装飾について調べる		
9週	クリスマスオーナメントづくり		クリスマスオーナメントの準備をする(1時間)		
10週	理想の保育士、理想の社会人を考える		希望する市町村について調べる (1時間)		
11週	就職活動に向けての心構え		保育士として働くことの意味を考える(1時間)		
12週	季節の行事を調べる 冬至 正月		季節の行事を調べる (1時間)		
13週	季節の行事の意味を考える		節分 イースターについて調べる (1時間)		
14週	先輩の話から自分の将来を考える		自己理解を深め、将来について考える (1時間)		
15週	1年の学びを振り返る		自分の学習成果について考える (1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）40%、受講態度 40%、提出物 20%、 論理的思考力：保育や進路に関する基礎的な情報を収集し。周囲の人とのコミュニケーションを取りながらそれらを活用したり発表したりすることができるかどうか、提出物、発表によって評価する。 実践力と協働性：担任や他のゼミ生と信頼関係を築き、積極的主体的に活動できるかどうか受講態度によって評価する。 保育の本質：幼児教育学科での学びと保育者に求められる資質を理解することができるかどうか提出物および定期試験によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日 2月16日（金）					
【テキスト】 信州豊南短期大学キャリア支援室『placement guide』（進路の手帳）					
【参考書等】 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 保育士という仕事は、生活や発達への支援を通して子どもたちの「今」を支えるだけでなく「未来」にも関わる仕事です。前向きな態度と真摯な姿勢で自分自身の資質・能力を見極める努力を積みましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
課題探究ゼミ (L216)	1	必修	1年 後期	演習	田中 育子(※)
【キーワード】自己分析、他者との関わり、キャリア教育、発表力、情報活用力、積極性、提案力					
【授業内容・授業の目的】前期で培った思考力と問題解決能力を用いて、子ども向けステージや制作、模擬保育といった保育に必要な活動を体験する。様々な経験をもとに、自分の強みや特性などの自己分析を深め、将来について計画的に学びを進める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：保育の技能や進路に関する情報を丁寧に収集し、周囲の人と協力してそれらを活用したり発表したりすることができる。 実践力と協働性：担任や他の学生との信頼関係を基に、協調性・協働性を持って活動に参加できる。 保育の本質：保育者に求められる資質や倫理観を身に付け、子どもの発達段階に応じた保育を理解することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	夏季休業中の振り返りと後期の過ごし方について	夏季休業を振りかえ、後期履修科目のシラバスを確認する。(1時間)			
2週	子ども向けステージの準備	子どもがより楽しめるように課題を考えておく。(1時間)			
3週	大学祭「子ども向けステージ」の課題を共有する	子ども向けステージの課題から改善点を考えておく。(1時間)			
4週	大学祭「子ども向けステージ」の最終修正し準備	子ども向けステージに向けた最終確認をしておく。(1時間)			
5週	教育実習に向けて、技術を見がく	教育実習で行う自己紹介の準備をする。(1時間)			
6週	教育実習の心構え	教育実習で課題を明確にし、どう学ぶかを考えておく。(1時間)			
7週	教育実習の反省と課題	教育実習の報告ができるようにまとめておく。(1時間)			
8週	“勇気と後悔”を考える	テキストのP276～最後までを再度読んでおく。(1時間)			
9週	“仲間・友だち”を考える	本の指定箇所を読んで仲間・友人について考えておく。(1時間)			
10週	理想の保育者、理想の社会人を考える	どのような保育者になりたいか、考えをまとめておく。(1時間)			
11週	就職活動に向けての心構え	教育実習を振り返り、今後の自身の課題を考えておく。(1時間)			
12週	教育実習の反省と課題	他者から見た実習評価と、自己評価を比較する。(1時間)			
13週	1年の学びの自己評価	自己評価をした上で、卒業後の進路について考える。(1時間)			
14週	自己分析と将来について考える	1年を振り返る。(1時間)			
15週	1年のまとめと来年度に向けて	自己理解を深め、将来に向けた目標設定をする。(1時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(レポート)40%、受講態度40%、提出物20% 論理的思考力：保育の技術や進路に関する情報を丁寧に収集し、周囲の人と協力してそれらを活用したり発表したりすることができるかを提出物及び受講態度によって評価する。 実践力と協働性：担任や他の学生との信頼関係を基に、協調性・協働性を持って活動に参加できるかどうか、受講態度によって評価する。 保育の本質：保育者に求められる資質や倫理観を身に付け、子どもの発達段階に応じた保育を理解しているかどうか、提出物及び定期試験(レポート)によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】吉野源三郎原作、羽賀翔一漫画『君たちはどう生きるか』マガジンハウス ISBN 978-4-837-2947-0 信州豊南短期大学キャリア支援室『placement guide』(進路の手帳)					
【参考書等】内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】保育者は、目の前の「人」を生活や発達への支援をしたり、「人」の生き方の目標設定をして共に成長することです。積極性と真摯な姿勢で、自分自身の資質・能力を見極める努力をして保育を楽しみましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
社会人基礎力演習 (L113)	1	必修	1年 前期	演習	河西 文子
【キーワード】 社会常識、ビジネスマナー、敬語、ビジネス文書の決まり					
【授業内容・授業の目的】 保育者が接するのは子どもだけではない。保護者や行事に協力して下さる地域の方など、社会経験のある多様な人々と関わりながら保育をしていく。また、日常では先輩や上司と協力して保育に当たらなければならない。様々な年代、立場の方々と信頼関係を結ぶために必要な社会常識、ビジネスマナーについて、演習を交えながら幅広く学ぶ。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業の目標は、社会人として必要な社会常識やビジネスマナーを身に着けることである。 保育の本質：家庭や地域と連携できる社会常識、ビジネスマナーを理解している。 論理的思考力：敬語の知識を用いて社内用及び社外用のビジネス文書を作成できる。 実践力と協働性：保護者や上司など様々な人々と協調・協働することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション、身だしなみ	テキストP 7～32 までを読んでおくこと（1時間）			
2週	バーバルとノンバーバル、お辞儀の録画①	テキストP33～37 までを読んでおくこと（1時間）			
3週	美しいお辞儀の練習（録画②）、挨拶と返事	テキストP38～45 までを読んでおくこと（1時間）			
4週	自己紹介	テキストP46～50 までを読んでおくこと（1時間）			
5週	話し方と言葉選び・伝え方の演習	テキストP51～64 までを読んでおくこと（1時間）			
6週	聴き方のマナー・話の聴き方・電話のかけ方	テキストP65～75 までを読んでおくこと（1時間）			
7週	電話の受け方・クレームの受け方の演習	テキストP76～92 までを読んでおくこと（1時間）			
8週	敬語について①	テキストP93～106 までを読んでおくこと（1時間）			
9週	敬語について②・小テスト（敬語）	前回の内容を復習しておくこと（1時間）			
10週	指示の受け方、報・連・相	テキストP107～122 までを読んでおくこと（1時間）			
11週	来客対応	テキストP123～140 までを読んでおくこと（1時間）			
12週	訪問のマナー・名刺交換実習	テキストP141～156 までを読んでおくこと（1時間）			
13週	ビジネス文書の決まり①（社内文書）	テキストP157～173 までを読んでおくこと（1時間）			
14週	ビジネス文書の決まり②（社外文書）	テキストP174～190 までを読んでおくこと（1時間）			
15週	メールの特徴とマナー、メールの書き方演習・お辞儀（録画③）	テキストP191～210 までを読んでおくこと（1時間）			
【成績評価の方法・基準】 定期試験（筆記）・小テスト（筆記）60%、技能20%、受講態度20% 保育の本質：定期試験（社会常識・対人スキル分野）により社会常識が身についているか評価する。 論理的思考力：定期試験（ビジネス文書作成分野）・小テスト（敬語）により文書作成能力を評価する。 実践力と協働性：受講態度と実習への取り組み、実習による技能の向上を評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 金森たかこ『入社1年目 ビジネスマナーの教科書』（株）プレジデント社 ISBN 978-4-8334-2229-1					
【参考書等】 公益財団法人実務技能検定協会『秘書検定集中講義3級』早稲田教育出版社 ISBN 978-4-7766-1018-2					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 保育や介護の仕事であっても、ビジネスマナーは社会人として必要です。立ち居振る舞いを身に着けるため、6月中はビジネススーツ着用で授業を行います。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本語表現演習 (L114)	1	必修	1年 前期	演習	赤間 公子
【キーワード】敬語の使用、(保育に関わる) 文書作成、児童文化財					
【授業内容・授業の目的】 保育者として現場に出たときに求められる「書く力」の向上を目指す。また、社会人として適切な敬語表現を身に付ける。小論文に取り上げられるテーマについて深く考え、言語で表現する力を養う。与えられたテーマについて調べ、考え、まとめ、児童文化財を製作し、発表する力の向上を目指す。					
【授業の到達目標 (学習成果)】 論理的思考力：社会問題を広く把握・理解し、言語で表現する力を付ける。 保育の方法と技能：子どもに関わるテーマについて考え、実践に活かすことを目指す。絵本の読み聞かせでは実習において活用できるように取り組むことができる。 実践力と協働性：児童文化財について調べ、グループで協力して発表することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス 社会人としての日本語		メールや電話のかけ方などの注意点について考える (1時間)		
2週	レポート・小論文の書き方		レポート用紙を準備し、書き方の作法について調べる (1時間)		
3週	小論文を書く①保育に関わる題材で		与えられたテーマで小論文を書く (1時間)		
4週	小論文を書く②子育てに関わる題材から		返却された小論文を書き直す (1時間)		
5週	小論文を書く③現代社会に関わる題材で		与えられたテーマで小論文を書く (1時間)		
6週	絵本 (児童文化財) について		返却された小論文を書き直す (1時間)		
7週	図書館での絵本選び・読み聞かせの練習・発表の準備		読み聞かせの絵本を選ぶ (1時間)		
8週	絵本の読み聞かせの発表		読み聞かせの練習 (1時間)		
9週	エプロンシアター・紙芝居等その他の児童文化財について		その他の児童文化財について調べる (1時間)		
10週	グループで児童文化財について調べる		発表の練習をする (1時間)		
11週	グループで児童文化財について発表する		他のグループの発表について検討する (1時間)		
12週	グループの発表について検討し、講評する		発表について振り返る (1時間)		
13週	社会人としてのマナーについて		配布された資料を読む (1時間)		
14週	社会人としての言葉遣い (敬語表現)		敬語表現についてまとめる (1時間)		
15週	まとめ：授業での学びの振り返り		授業を振り返り、課題についてまとめる (1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験 (レポート) 50%、技能 30%、受講態度 20% 論理的思考力：社会問題を広く把握・理解し、言語で表現する力を定期試験 (レポート) によって評価する。 保育の方法と技能：絵本の読み聞かせでは実習において活用できるように、技能と受講態度によって評価する。 実践力と協働性：児童文化財について、調べ、グループでプレゼンテーションすること等、受講態度によって評価する。					
【課題 (試験・レポート等) のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 適宜、授業時に配布する					
【参考書等】 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本』 チャイルド社 ISBN 978-4-8054-0258-0					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 自分の考えを自信を持って表現できるようにしましょう。添削された小論文は書き直しましょう。児童文化財について調べ、グループで協力して発表しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報基礎演習Ⅰ (L115)	1	必修	1年 前期	演習	松村 哲也
【キーワード】ワード、Microsoft Word ワープロ、文書作成、著作権、インターネット					
【授業内容・授業の目的】レポートや論文の作成、実習の記録をはじめ、業務書類など様々な文書作成に役立つのがワードプロセッサ・アプリ“Word”です。Microsoft Wordを使用した文書作成能力の習得を中心に、インターネットを安全に活用して情報を収集する方法、そしてレポートや論文の執筆に関連する著作権についても学びを進めます。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：他者への情報伝達の難しさを理解し、良好な情報共有を実現する文書を作成できる。 論理的思考力：思考を滑らかに表現するための速く正確なタイピングができる。Microsoft Wordを使用した、伝達力の高い文書の作成ができる。 保育の本質：保育・幼児教育現場の情報化とネット活用の進展を見据えた情報リテラシを身につけている。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション・パソコン(PC)の基本操作	テキストの目次に目を通しておくこと(1時間)			
2週	PC、Windows、インターネットの概要	第1章を読んでおくこと(1時間)			
3週	Wordアプリの特徴と文字の入力方法	第2章を読んでおくこと(1時間)			
4週	Word見栄えのする文書を作成する	第3章を読んでおくこと(1時間)			
5週	Word入力した文書を修正する	第4章を読んでおくこと(1時間)			
6週	Word表を使った文書を作成する	第5章を読んでおくこと(1時間)			
7週	Word年賀状を素早く作成する	第6章を読んでおくこと(1時間)			
8週	Word文書のレイアウトを整える	第7章を読んでおくこと(1時間)			
9週	WordもっとWordを使いこなす① (レイアウト調整)	第8章を読んでおくこと(1時間)			
10週	WordもっとWordを使いこなす② (校正作業)	第8章を再読しておくこと(1時間)			
11週	Word他アプリとのデータ連携	第9章を読んでおくこと(1時間)			
12週	Wordクラウドの利用とモバイル	第10章を読んでおくこと(1時間)			
13週	演習 情報の集約とレポート作成	第1章?第10章を通読しておくこと(1時間)			
14週	情報倫理① ネットの安全な利用	経験したネットトラブルを振り返ること(1時間)			
15週	情報倫理② 著作権の尊重と法による規定	著作権法についてネット検索しておくこと(1時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(学期末課題)60%、ミニ課題30%、受講態度10% 実践力と協働性：他者への情報伝達の難しさを理解し、良好な情報共有を実現する文書を作成できるか、提出物および受講態度によって評価する。 論理的思考力：思考を滑らかに表現するための速く正確なタイピングができていて、Microsoft Wordを使用した、伝達力の高い文書の作成ができるか、提出物および受講態度によって評価する。 保育の本質：保育・幼児教育現場の情報化とネット活用の進展を見据えた情報リテラシを身につけているか、提出物および受講態度によって評価する。 ※受講態度には地域ボランティア活動等への参加経験も含まれます。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】田中 亘&できるシリーズ編集部『できる Word2019 (Office2019, Office365 両対応)』インプレス ISBN-13：978-4-295-00554-4					
【参考書等】					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】データの保存にUSBメモリを使用します。学生番号と氏名を記載したものを持参してください。授業進度に応じて内容を調整することがあります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報基礎演習Ⅱ (L217)	1	必修	1年 後期	演習	松村 哲也
【キーワード】 エクセル、Microsoft Excel、表計算、文書作成、表、グラフ、数値計算					
【授業内容・授業の目的】 表計算アプリMicrosoft Excelを使用して、表の作成、数値の計算およびグラフを使った表現、データ集計・分析の基礎を学びます。レポートや論文の執筆だけでなく、卒業後のビジネス文書作成を見据えながら、高い表現力と伝達力を習得しましょう。					
【授業の到達目標（学習成果）】 実践力と協働性：他者への情報伝達の難しさを理解し、良好な情報共有を実現する文書を作成できる。 論理的思考力：さまざまなデータや情報を目的や用途に応じて整理・分析し、表やグラフを用いて伝達力の高い文書表現ができる。 保育の本質：保育・幼児教育現場の情報化とネット活用の進展を見据えた情報リテラシーを身につけている。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション・パソコン(PC)の基本操作		テキストの目次を通読しておくこと(1時間)		
2週	Excel 基本編 データ入力の基本操作		第1、2章を通読しておくこと(1時間)		
3週	Excel 基本編 セルの操作方法		第3章を通読しておくこと(1時間)		
4週	Excel 基本編 数式や関数を使った計算方法		第4章を通読しておくこと(1時間)		
5週	Excel 基本編 表の見栄えを整える		第5章を通読しておくこと(1時間)		
6週	Excel 基本編 表を印刷する		第6章を通読しておくこと(1時間)		
7週	Excel 基本編 グラフと図形の使い方		第7章を通読しておくこと(1時間)		
8週	Excel 活用編 ブックとシートの使い方		第8章を通読しておくこと(1時間)		
9週	Excel 活用編 数式と参照を使いこなす		第9章を通読しておくこと(1時間)		
10週	Excel 活用編 必須の関数を使いこなす		第10章を通読しておくこと(1時間)		
11週	Excel 活用編 関数で作業効率アップ		第11章を通読しておくこと(1時間)		
12週	Excel 活用編 データ集計		第12章を通読しておくこと(1時間)		
13週	Excel 活用編 ピボットテーブル		第13章を通読しておくこと(1時間)		
14週	演習 データ分析と文書作成		第1章～第13章を再読しておくこと(1時間)		
15週	情報倫理 ネット犯罪の手口と対策		経験したネットトラブルを振り返ること(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験(学期末課題提出物)60%、ミニ課題提出物30%、受講態度10% 実践力と協働性：他者への情報伝達の難しさを理解し、良好な情報共有を実現する文書を作成できるか、提出物および受講態度によって評価する。 論理的思考力：さまざまなデータや情報を目的や用途に応じて整理・分析し、表やグラフを用いて伝達力の高い文書表現ができるか、提出物および受講態度によって評価する。 保育の本質：保育・幼児教育現場の情報化とネット活用の進展を見据えた情報リテラシーを身につけているか、提出物および受講態度によって評価する。 ※受講態度には地域ボランティア活動等への参加経験も含まれます。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 羽毛田睦土&できるシリーズ編集部『できるExcel 2021 (Office 2021 & Microsoft 365 両対応)』インプレス ISBN-13: 978-4-295-01324-2					
【参考書等】					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 データの保存にUSBメモリを使用します。学生番号と氏名を記載したものを持参してください。授業進度に応じて内容を調整することがあります。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
保健体育 (L406)	2	選択必修 (幼免・保育士必修)	2年 後期	講義	高井 和男
【キーワード】運動あそび、レクリエーション、ストレス、プレッシャー、ニュージーランド					
【授業内容・授業の目的】 生涯にわたり健全で豊かな生活を送るために必要な健康、運動、体力について学び、考える。また、実践的なスポーツ活動を通して、運動の楽しさを体験し、健康的な生活を送ることをめざす。					
【授業の到達目標（学習成果）】スポーツの知識やスキルアップだけではなく、積極的にスポーツに参加することにより、生涯を通して、スポーツを楽しみ、健康づくりができるようにする。 理論的思考力：メンタルトレーニング、コミュニケーションスキル、ストレスコントロールの方法を学び、人間力をアップすることができる。 実践力と協働性：運動本来の楽しさを実践し、技術や戦略についてコミュニケーションをとりながら問題を解決することができる。 保育の方法と技能：幼児体育指導者として、運動あそびに関心をもって、そのスキルと指導法を学び、楽しく指導することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション (授業の進め方と授業内容)	シラバスの参照と受講準備 (1時間)			
2週	健康と体力①(健康問題の現状)	身の回りの健康問題について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
3週	健康と体力②(体力トレーニングの意義と方法)	体力トレーニングの方法について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
4週	健康と運動① (身体の発育発達と運動)	発育発達について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
5週	健康と運動② (生活習慣病の予防と運動)	生活習慣病について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
6週	レクリエーションと運動	レクリエーションゲームについて調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
7週	ウォーミングアップとストレッチング	ウォーミングアップとストレッチングについて調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
8週	メンタルトレーニング (プレッシャーの克服法)	メンタルトレーニングについて調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
9週	コミュニケーションスキルの向上	コミュニケーションスキルについて調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
10週	ストレスコントロールの実践	ストレスについて調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
11週	ニュージーランドの体育とスポーツ	ニュージーランドのスポーツ事情について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
12週	運動あそびのスキルと指導法① ボールゲーム	ボールゲームの指導法について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
13週	運動あそびのスキルと指導法② おにごっこ	おにごっこの指導法について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
14週	運動あそびのスキルと指導法③ 運動会	運動会のありかたと指導法について調べておく。(2時間) 運動実践 (2時間)			
15週	まとめとふり返り (幼児体育指導者として)	授業で学んだことを幼児体育指導者としてどう生かすかを ふり返る。(2時間) 運動実践 (2時間)			
【成績評価の方法・基準】 受講態度 40%、定期試験(レポート) 30%、技能 30% 理論的思考力：健康、運動、体力に関する諸問題について理解できているか、レポートで評価する。 実践力と協働性：体育実技に積極的に参加する受講態度を評価する。 保育の方法と技能：子どもの運動あそびのスキルと指導法を習得しているか、技能で評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日(仮称)」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日 2月16日(金)					
【テキスト】授業中に適宜資料を配付する。					
【参考書等】小山 混 『レクリエーションゲーム 100』 主婦の友社 ISBN4-07-254049-9					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】実技をとる授業では、運動に適したウェア、シューズを準備する。健康に留意し、授業に積極的に参加する。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
生涯スポーツ (L116)	1	必修	1年 前期	演習	高井 和男
【キーワード】 スポーツ、運動あそび、健康、コミュニケーション、ゲーム					
【授業内容・授業の目的】 スポーツ実践を通して、体力の向上や健康の増進を図ることをねらいとする。 スポーツを通してそれぞれの種目特性を探り、技術レベルを高める。またゲームに必要な戦術、ルールなどの理解を深めながら、ゲーム本来の楽しさやグループで行なう楽しさを体験する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業での目標は、スポーツの知識や技術向上だけではなく、対人コミュニケーションをより積極的に図ることができ、在学中のみならず、卒業後も継続してスポーツを楽しみながら健康づくりができるようになることである。 論理的思考力：活動内容について理解し、実施する種目に応じて説明することができる。 実践力と協働性：技術や戦術について他者と相談することや、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができる。 保育の方法と技能：スポーツを行なう楽しさや技能が身につく、さらに健康への関心を深めることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション（授業の進め方と授業内容）		シラバスの確認と受講準備（1時間）		
2週	バドミントン① ドライブとハイクリアの練習		バドミントンラケットの使い方について調べ練習しておく（1時間）		
3週	バドミントン② ドロップとサーブの練習		サーブの仕方について調べ練習しておく（1時間）。		
4週	バドミントン③ スマッシュ練習とダブルスゲーム		ダブルスのルールについて確認しておく（1時間）。		
5週	バドミントン④ コンビネーション練習とダブルスゲーム		ダブルスのゲームを動画で観ておく（1時間）		
6週	バドミントン⑤ ダブルスゲームのリーグ戦		ダブルスの戦術について確認しておく（1時間）。		
7週	卓球① 基本の練習		サーブとレシーブを動画で観ておく（1時間）		
8週	卓球② 応用の練習と戦術		フォアハンドとバックハンドについて調べ練習しておく（1時間）		
9週	卓球③ ダブルスゲームのリーグ戦		ダブルスのルールについて確認しておく（1時間）		
10週	バレーボール① 基本の練習		レシーブ、トス、アタックを動画で観ておく（1時間）		
11週	バレーボール② 応用の練習と戦術		3段攻撃を動画で事前に観ておく（1時間）		
12週	バレーボール③ ゲームリーグ戦		ゲームのルールを確認しておく（1時間）。		
13週	バレーボール④ ゲームトーナメント		ゲームの戦術を確認しておく（1時間）		
14週	バドミントン 卓球 バレーボール（種目選択）		ゲームを動画で観ておく（1時間）		
15週	まとめとふり返り		授業で学んだことを今後どう生かすかをふり返る（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 受講態度 40%、技能 30%、定期試験（レポート） 30% 論理的思考力：活動内容について理解しているかをレポートで評価する。 実践力と協働性：技術や戦術について、コミュニケーションを取りながら問題を解決することができるか、受講態度で評価する。 保育の方法と技能：スポーツの特性への理解や運動スキルについて習得しているか、技能で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 大修館書店編集部『観るまえに読む 大修館 スポーツルール 2019』大修館書店 ISBN 9784469268614					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 運動に適したウェア、シューズを準備する。健康に留意し、授業に積極的に参加する。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本国憲法 (L407)	2	選択必修 (幼免必修)	2年 後期	講義	多田 庶弘
【キーワード】立憲主義、人権、統治権、憲法改正					
【授業内容・授業の目的】 憲法改正が叫ばれる状況において、改憲、護憲以上に憲法をきちんと理解する知憲という視点が必要といえる。そのような点から、改めて憲法をとらえ直し、公正で論理的な憲法論議が出来ることを目指している。					
【授業の到達目標（学習成果）】 論理的思考力：憲法の本質を理解することができる。 実践力と協働性：憲法改正是非について、どのような点の改正が必要か、不要か等の議論ができる。 保育の本質：学んだ知識を保育における課題に適用できる。					
授業計画		準備学習等			
1週	国家と憲法 ーガイダンス	現在憲法で何が議論されているのか考えてみる。(2時間) 復習として、配布資料を確認し憲法の目的について復習するためノート等にまとめる。(2時間)			
2週	日本国憲法の成立ー憲法の制定過程	中・高で勉強した憲法の制定過程について調べてみる。(2時間) 復習として、どのような背景で、憲法が制定されたのかを復習するためノート等に整理する。(2時間)			
3週	国民主権ー日本国憲法における象徴天皇制	国民主権の意味するところを考えてみる。(2時間) 復習として、配布資料を確認し、国民主権が天皇制の項目で制定されている意味を理解するためにノート等にまとめる。(2時間)			
4週	平和のうちに生きる権利ー憲法9条について考える	世界各地の紛争について理由を調べてみる。(2時間) 復習として、教科書のP48-P63と配布資料を読み、日本国憲法の掲げる平和主義の意味を理解するためにノート等にまとめる。(2時間)			
5週	個人の尊重と平等原則ー人権保障に限界はあるのか	平等の内容について考えてみる。(2時間) 教科書P64-P81を読み、平等原則の内容を復習するためノート等にまとめる。(2時間)			
6週	人身の自由と適正手続きの保障ー黙秘権と無罪の推定	黙秘権の保障はなぜ必要なのかを考えてみる。(2時間) 復習として、なぜ、憲法で黙秘権や無罪推定の権利が制定されているかを教科書P82-P91、配布資料を確認し理解するためにノート等にまとめ理解する。(2時間)			
7週	言論の自由ーいっせつ文章はなぜ規制の対象となるのか	言論の自由における問題について調べる。(2時間) 復習として、教科書P92-P107、配布資料を確認し、言論の自由が重要な点をノート等にまとめる。(2時間)			
8週	生存権ー健康で文化的な最低限度の生活とは	健康で文化的な最低限度の生活の保障の内容を調べてみる。(2時間) 復習として、配布資料を確認し、健康で文化的な最低限度はどのような考え方があるのかをノート等にまとめてみる。(2時間)			
9週	教育の権利ー教育権の所在とは	憲法が規定する教育権とは何かを考えてみる。(2時間) 復習として、教科書P108-P120を読み、教育の自由が憲法でなぜ示されているのかをノート等にまとめる。(2時間)			
10週	婚姻の自由ー婚姻は両性の合意に基づくとは	両性の合意の意味について考えてみる。(2時間) 資料を確認し、日本国憲法で示す両性とは何か、同性婚は憲法上できるのかをノート等にまとめる。(2時間)			
11週	国会ー国権の最高機関としての国会	国会の役割について確認しまとめてみる。(2時間) 復習として、教科書P156-P179を読み、国会の最高機関、全国民の代表の意味することを理解するためにノート等にまとめる。(2時間)			
12週	内閣ー議院内閣制	議院内閣制が意味するものと考えてみる。(2時間) 復習として、教科書P180-P192を読み、議院内閣制の内容を復習するためノート等にまとめる。(2時間)			
13週	裁判を受ける権利	教科書P193-P206を読み、司法権の内容をノートにまとめる。(2時間) 資料を確認し日本国憲法における違憲立法審査権の意味するところを理解するためノート等にまとめる。(2時間)			
14週	憲法改正ー人権を制約する改正は認められるのか	憲法改正について考えてみる。(2時間) いままでの授業の内容を確認し、憲法改正が必要な点があるのか、あるならばどのような点か、ないならばなぜ必要がないのかをノート等にまとめる。(2時間)			
15週	知憲という視点からの憲法(まとめ)	これまでの講義内容を確認して。(1時間) 復習として日本国憲法の内容を理解できるように、まとめたノート等を確認する。(2.5時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(筆記試験)80%、小テスト10%、提出物(レポート)10% 論理的思考力：筆記試験や小テストにより、日本国憲法の考え方について理解しているかを評価する。 実践力と協働性：筆記試験や提出物について論理的に展開できているかを評価する。 保育の本質：筆記試験や小テストにより、保育の本質に達しているかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日(仮称)」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月16日(金)					
【テキスト】山本聡・渡辺演久『憲法のおもしろさ(第3版)』北樹出版 ISBN978-4-7793-0596-2 また、授業時にプリントを配布する。					
【参考書等】芦部信喜(高橋和之 補訂)『憲法(第7版)』岩浪書店					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 憲法に関する本及び日々のニュースに目を向けることを習慣づけるようにしてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
Oral English I (L117)	1	必修	1年 前期	演習	矢亀 尋美
【キーワード】English Communication skills, group and pair work, speaking, listening					
【授業内容・授業の目的】This class will review basic structures and communication skills of English. Students will gain confidence in speaking, listening, and using English. The emphasis will be on communication in English that is fun to use and learn, with skills to use as preschool teachers. Students will be given the chance to communicate with others in English in a natural way in each class. They will work in pairs and groups for a variety of situations, make presentations, read aloud picture books and practice songs and nursery rhymes with gestures.					
【授業の到達目標（学習成果）】At the end of the semester, students will be able to feel confident in communicating in English with others about themselves and the basic everyday things. They will also have the vocabulary needed for early childhood care. 論理的思考力：日常的な話題について、英語の語彙や文法を理解し自己表現のために使うことができる。学習した英語を用いて自分の考えや経験を他者に自信をもって説明し、他者から必要な情報を得ることができる。 実践力と協働性：英語を使って自分の考えや経験を他者と共有し、他者から必要な情報を引き出し、協力しながら与えられた課題を仕上げることができる。 保育の方法と技能：学習した英語を使って子どもと多様なコミュニケーション活動を行うことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	Introduction		Read the pages to Unit 1 (0.5 hour)		
2週	Unit 1 Getting to know each other		Prepare for Unit 1 (1 hour)		
3週	Unit 1 Self-introduction		Review Unit 1, prepare self-introduction (1 hour)		
4週	Unit 2 Dates & Ordinal Numbers		Review for the word test, prepare for Unit 2 (1 hour)		
5週	Unit 2/3 Personal information		Review Unit 2, prepare for Unit 3 (1 hour)		
6週	Unit 3/4 Likes/ Dislikes		Review Unit 3, prepare for Unit 4 (1 hour)		
7週	Unit 4 Favorites		Review Unit 4, prepare for presentation (1 hour)		
8週	Presentation: 'My Favorite Things'		Prepare the script and practice presentation (1.5 hours)		
9週	Unit 5 Counters & Singular/Plural		Review for the word test, prepare Unit 5 (1 hour)		
10週	Unit 5/6 Wh- Questions		Review Unit 5, prepare for Unit 6 (1 hour)		
11週	Unit 6/7 Can & Can' t		Review Unit 6, prepare for Unit 7 (1 hour)		
12週	Unit 7/8 Simple Present & Describing Things		Review Unit 7, prepare for Unit 8 (1 hour)		
13週	Unit 8/9 Family		Review Unit 8, prepare for Unit 9 (1 hour)		
14週	Presentation: Reading aloud picture books		Review Unit 9, practice reading aloud the story (1.5 hours)		
15週	Semester Review		Review the semester and Unit 9 (1 hour)		
【成績評価の方法・基準】Students will be assessed on their work throughout the semester. Participation(受講態度) 50%, Word test(小テスト) 20%, Presentation(技能) 20%, Assignments(提出物) 10% 論理的思考力：小テスト・受講態度・提出物（授業時のワークシート等）により、英語でコミュニケーションするための語彙や文法を理解し自己表現のために使っているかを評価する。また、技能（発表）・受講態度・提出物（授業時のワークシート等）により自分と他者の考えをお互いに英語で伝え合うというコミュニケーション活動が行えているかを評価する。 実践力と協働性：技能（発表）と提出物（授業時のワークシート等）により、グループで協力しながら与えられた課題を仕上げ、英語で発表することができるかを評価する。 保育の方法と技能：受講態度・技能（発表）・提出物（授業時のワークシート）により、英語でのさまざまなコミュニケーション活動に積極的に取り組んでいるかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】Feedback of the assignments, quizzes and presentations will be given back by the teacher in class during the semester.					
【テキスト】David F. Martin 著 「Talk a Lot, Starter Book」 Second Edition EFL Press					
【参考書等】英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書は可。スマートフォン、タブレット、翻訳ソフトの使用は禁止。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 教科書の各 Unit について小テスト(ワードテスト)をするので、よく復習しましょう。歌や絵本などのテキスト以外の活動を取り入れます。英語を楽しみながら使っていきます。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
Oral English II (L218)	1	選択必修 (幼免必修)	1年 後期	演習	矢亀 尋美
【キーワード】English Communication skills, group and pair work, speaking, listening, dialogs					
【授業内容・授業の目的】This class will continue to review basic structures and communication skills of English. Students will gain confidence in speaking, listening, and using English. The emphasis will be on communication in English that is fun to use and learn, with skills to use as preschool teachers. Students will be given the chance to communicate with others in English in a natural way in each class. They will work in pairs and groups for different situations, make presentations, read aloud picture books and practice songs and nursery rhymes with gestures.					
【授業の到達目標 (学習成果)】At the end of the semester, students will be able to feel confident in talking in English with others about themselves and the basic everyday things. They will also have the vocabulary needed for early childhood care. 論理的思考力：日常的な話題について、英語の語彙や文法を理解し自己表現のために使うことができる。学習した英語を用いて自分の考えや経験を他者に自信をもって説明し、他者から必要な情報を得ることができる。 実践力と協働性：英語を使って自分の考えや経験を他者と共有し、他者から必要な情報を引き出し、協力しながら与えられた課題を仕上げるができる。 保育の方法と技能：学習した英語を使って子どもと多様なコミュニケーション活動を行うことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	Introduction		Remember what happened in summer (0.5 hour)		
2週	Unit 10	Simple past: Questions and Stories	Prepare for Unit 10 (1 hour)		
3週	Unit 10/11	Jobs	Review Unit 10, prepare for Unit 11 (1hour)		
4週	Unit 11	More jobs	Review Unit 11, practice dialogs about jobs (1 hour)		
5週	Unit 12	Making Comparisons	Prepare for Unit 12 (1 hour)		
6週	Unit 12/13	Numbers	Review Unit 12, Prepare for Unit 13 (1 hour)		
7週	Unit 13/14	Present & Past Progressive	Review Unit 13, Prepare for Unit 14 (1 hour)		
8週	Presentation: Children's song with gesture		Prepare and practice presentation (1.5 hour)		
9週	Unit 14/15	Present Perfect	Review Unit 14, prepare for Unit 15 (1 hour)		
10週	Unit 15	Present Perfect	Review Unit 15, practice dialogs (1 hour)		
11週	Unit 16	Countries, Nationalities & Languages	Prepare for Unit 16 (1 hour)		
12週	Unit 16	Countries, Nationalities & Languages	Review Unit 16 (1 hour)		
13週	Unit 17	future / Reading aloud children's story	Prepare for Unit 17, prepare for reading aloud children's story (1 hour)		
14週	Presentation: Reading aloud children's story		Practice reading aloud children's stories (1.5 hour)		
15週	Semester review		Review the semester (1 hour)		
【成績評価の方法・基準】 Students will be assessed on their work throughout the semester. Participation(受講態度) 50%, Word test(小テスト) 20%, Presentation (技能) 20%, Assignments (提出物) 10% 論理的思考力：小テスト・受講態度・提出物(授業時のワークシート等)により、英語でコミュニケーションするための語彙や文法を理解し自己表現のために使えているかを評価する。また、技能(発表)・受講態度・提出物(授業時のワークシート等)により自分と他者の考えをお互いに英語で伝え合うというコミュニケーション活動が行えているかを評価する。 実践力と協働性：技能(発表)と提出物(授業時のワークシート等)により、グループで協力しながら与えられた課題を仕上げ、英語で発表することができるかを評価する。 保育の方法と技能：受講態度・技能(発表)・提出物(授業時のワークシート)により、英語でのさまざまなコミュニケーション活動に積極的に取り組んでいるかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】Feedback of the assignments, quizzes and presentations will be given back by the teacher in class during the semester.					
【テキスト】David F. Martin 著 「Talk a Lot, Starter Book」 Second Edition EFL Press					
【参考書等】英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書は可。スマートフォン、タブレット、翻訳ソフトの使用は禁止。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 教科書の各 Unit について小テスト(ワードテスト)をするので、よく復習しましょう。歌や絵本などのテキスト以外の活動を取り入れます。英語を楽しみながら使っていきましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
環境問題演習 (L219)	1	選択必修	1年 後期	演習	森本 健一
【キーワード】 Glocally(グロカリー)、持続可能な開発目標 (SDGs)、消費者教育、食品ロス、『賞味期限のウソ』					
【授業内容・授業の目的】Think Globally, Act Locally(地球的視野を持ち、地域で行動する)略してGlocally(グロカリー)がテーマである。2030年までのSDGs17の国際的達成目標について理解を深めるとともに、プラスチック問題、食品ロスなど日常生活における環境問題について考える。それと共に持続可能な世界を未来に継承していくため、授業後半ではテキスト『賞味期限のウソ』の各章毎、全45の項目について、各自ポイントの簡潔なまとめの報告(プレゼン・報告書提出)を行い、情報の共有化を行う。また自然エネルギー利用技術(ソーラークッカー、落ち葉での焼き芋)、廃油アロマキャンドルの制作を実習として行う。					
【授業の到達目標(学習成果)】 自然環境関連の用語に習熟し、それらが関わる情報に鋭敏に反応し、情報収集する力を高めてもらいたい。ライフスタイルを点検し、各自のSDGs実践について、プレゼン発表し、最終報告書として提出してもらう。 論理的思考力:地球的視野を持ち、地域で行動するグロカリーの発想の常態化を実現している。 実践力と協働性:食育及び食品ロス問題など、人類社会の未来にどのようにかわるかを考え、実践することができる。 保育の方法と技能:自然環境関連の用語に習熟し伝統的な暮らしから生み出された知恵工夫について理解している。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス(オリエンテーション)	「グロカリー」「世界の人口時計」(1時間)			
2週	持続可能な開発目標(SDGs)① 目標1~7	目標1~7と日常生活とのかかわりを考える(2時間)			
3週	持続可能な開発目標(SDGs)② 目標8~17	目標8~17と日常生活とのかかわりを考える(2時間)			
4週	自然エネルギー利用① ソーラークッカー活用(実習)	災害時対応技術としての活用を考える(2時間)			
5週	大学祭と環境・コロナ問題(学内巡検)	学生生活をSDGs観点から点検し、改善策を考える(3時間)			
6週	自然エネルギー利用② 落ち葉活用技術(実習)	焼き芋実践法、薪炭等バイオマス資源有効活用法(2時間)			
7週	プラスチック問題① 現代社会とプラスチック	レジ袋・ストロー問題、脱プラスチックを考える(2時間)			
8週	プラスチック問題② 地球規模の拡散問題	海洋マイクロプラスチック問題と生態系保全(2時間)			
9週	廃油アロマキャンドル制作(実習)① 3R実践	廃油、不要クレヨン、空き瓶を再利用する(2時間)			
10週	廃油アロマキャンドル制作(実習)② 地域開放講座	地域の小学生と共に灯りの歴史を学び、芯を変化させたキャンドル制作を行う(2時間)			
11週	『賞味期限のウソ』精読報告① 第1章~2章	第1章賞味期限、第2章食品の見分け方(2時間)			
12週	『賞味期限のウソ』精読報告② 第3章	第3章捨てるコストの負担(2時間)			
13週	『賞味期限のウソ』精読報告③ 第4章	第4章買い物は投票(2時間)			
14週	『賞味期限のウソ』精読報告④ 第5章	第5章フードバンク活動(2時間)			
15週	実践活動報告(プレゼンテーション発表)	パワーポイントでの各自の実践報告発表(2時間)			
【成績評価の方法・基準】毎授業時提出のまとめ・コメント60%、最終報告書20%、プレゼンテーション20% 論理的思考力:地球的視野を持ち、地域で行動するグロカリーの発想(環境意識)が常態化してきたか、コメントにより評価する。 実践力と協働性:急速に進む地球環境の悪化と人類社会の未来にどのようにかわるかを考え実践したか、プレゼンテーション発表で評価する。 保育の方法と技能:自然環境関連の用語に習熟し伝統的な暮らしから生み出された知恵工夫について理解を深めたか、毎回キーワードおよびまとめて点検する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期、掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】井出留美『賞味期限のウソ』幻冬舎新書 ISBN-10:4344984331					
【参考書等】谷崎潤一郎『陰翳礼讃』 SDGsの17の目標と169のターゲット一覧 https://gooddo.jp/magazine/sdgs_2030/3464/					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 これからの地球の未来をさまざまな角度の環境問題視点から考える授業であるので、意欲的に学び、環境問題関連のニュースをしっかり捉え、地球の環境問題解決に貢献できるSDGs人間となってほしい。					